

平成27年度 学校経営計画に対する中間報告書

資料3

石川県立羽咋工業高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
1 生徒全員の進路実現のため、全教職員が授業改善を実践するとともに、資格取得を奨励し、学力向上を図る。	① 研究協議会の内容を改善し、言語活動の充実とアクティブラーニングの導入、ICT機器活用により、学校全体で授業改善を行う	各教科と学科で授業改善についての取組を A 各学期に3回以上取り組んだ B 各学期に2回取り組んだ C 各学期に1回取り組んだ D 全く取り組むことができなかった	教職員対象に 7月にアンケート調査 A : 22% B : 57% C : 17% D : 4% 評価 : A・B合わせて79%	教職員対象アンケート結果は、A・B合わせて79%となり、中間評価では判定基準の80%をクリアできなかった。しかし、今年度はICT機器活用に加えてアクティブラーニングの全教科への導入を始めており、昨年の中間評価比では7ポイントアップした。また、研究授業が2学期以降にほとんど実施されることから、研究授業や互観授業・公開授業等を通して授業改善への取組を働きかけ、Dを0%にするなど日々の授業改善への意識を高めていきたい。
	② 学力向上を図るために教科の課題やレポートの出題方法と回数工夫するとともに、授業と資格取得の補習指導を通して家庭での学習習慣を身に付けさせる。	課題・レポート・資格取得などや家庭での学習活動について A 十分取り組むことができた B おおむね取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全く取り組むことができなかった	生徒対象に 7月にアンケート調査 A : 32% B : 54% C : 13% D : 1% 評価 : A・B合わせて86%	生徒対象アンケート結果は、A・B合わせて86%となり、中間評価では判定基準の80%をクリアした。昨年の中間評価比1ポイントの減少だが、授業課題・レポート・資格取得の他、朝・昼・夜の補習等の成果であると考えられる。今年度は、他の調査項目の家庭学習時間で「ほとんどしなかった」が10ポイント改善して34%となり、初めて30%台に減少した。まだまだ補習に家庭学習を依存しているが、後期に実施される多くの資格検定に向けた学習を核にして、更に家庭での自発的な学習を習慣づけるよう働きかけ、学力向上にも繋げたい。
	③ 全教員が愛読書を薦めたり、昼食時の出前図書などの読書運動を全校的に行い、生徒に読書の習慣を身につけさせる。	2学期末での貸し出し図書数が A 1200冊以上 B 1000冊～1199冊 C 800冊～999冊 D 800冊未満	7月に調査 7月末の貸出数 626冊 B評価(1000冊)に対する達成率62.6%	7月末で貸し出し図書数626冊で、2学期末目標1200冊の52.2%が達成されている。今年度は、図書館棟大規模改造・耐震補強工事があり、その準備として図書の箱詰めや引っ越し後の図書の整頓等の作業が6・7月と続き多くの時間が取られ、昨年並みの読書推進活動がほとんどできなかった。2学期からは、出前図書を実施したり、校内放送等を利用して「先生のお薦めの1冊」運動をしっかりとして展開していきたい。
	④ 資格・検定取得の説明機会を増やして受験を奨励するとともに、土曜授業や課外補習を充実させ合格者数を増加させる。	1月末での資格・検定試験延べ合格者数が学校全体で A 800人以上 B 700人～800人未満 C 550人～700人未満 D 550人未満	8月末の資格・検定試験合格者数を検証 8月末現在 404人 B評価(700人)に対する達成率57.7%	8月末現在の集計では、資格・検定試験合格者数は404人となり、判定基準であるB評価(700人以上)に対する現時点での達成率は57.7%であった。昨年前期と比較し合格者数は15人増加となっている。2学期以降に受験する資格・検定も多く、教務課とも連携した資格・検定試験の受験奨励および補習の充実等により目標を達成するよう努力したい。また、ジュニアマイスターの申請者増加に向けた取組と合わせて各工業科や担任に働きかけていきたい。
	⑤ ジュニアマイスターのゴールドおよびシルバーの特別表彰、校内顕彰、校内顕彰、プロンズの取得を目指し、学校全体で多くの資格・検定への挑戦意識を高めて認定者数を増加させる。	ジュニアマイスターゴールドおよびシルバーの認定者数が学校全体で A 60人以上 B 50人～59人 C 40人～49人 D 39人以下	前期申請者数を検証 前期認定者数 46人 B評価(50人)に対する達成率92%	前期の集計では、認定者合計は46人(ゴールド17人、シルバー29人)となり、前期認定者数としては昨年度の50人より4人減少し、判定基準であるB評価に対する達成率は現時点で92%であった。2学期は資格・検定の受験機会も多く、合格に向けて生徒への働きかけと補習の充実によりA評価を達成したい。1年生に申請を促し、学校全体で資格・検定への挑戦意識を高めて認定者数を増加させるとともに、前年度同様ゴールド特別表彰者が多数できるように難易度の高い資格・検定の受験も奨励していきたい。
	⑥ インターンシップや地元企業説明会等により適切な進路選択を促進させるとともに、進路説明会やLHなどで進路に向けた情報提供を行なう。	各種進路指導行事・LHなどによる説明や進路情報により、意識が A たいへん高まった B ある程度高まった C あまり変わらない D 全く変わらない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A : 48% B : 48% C : 3% D : 1% 評価 : A・B合わせて96%	生徒対象アンケート結果、意識が高まった割合は、A・B合わせて96%となり、判定基準をクリアしている。求人件数が増加しているためか、今年度の2・3年生の就職希望者は、共に約75%と多い。後期には、2年生のインターンシップも控え、意識はより高まると予想される。進路に対して、時期に見合った指導を行い、意識を高めていくと共に1・2年次での職業理解、進学指導等の充実を図っていきたくと考えている。今年度も1・2年生を対象とした「地元で働く卒業生と語る会」や「先輩(大学生)と語る会」も計画している。
	⑦ 進路希望の達成のために指導の充実を図る。基礎学力の定着を図り、試験対策を十分に行う。外部講師による講演や面談・指導を充実させる。	朝学習や学力テスト、補習、面接指導により、実力が A たいへんついた B ある程度ついた C あまりつかなかった D 全くつかなかった	生徒対象に 7月にアンケート調査 A : 38% B : 55% C : 5% D : 2% 評価 : A・B合わせて93%	生徒対象アンケート結果、実力がついた割合は、A・B合わせて93%となり、判定基準をクリアしている。今年度から初めて全学年による朝学習10分間を導入し、学年ごとに振り返り学習等のプリントを毎朝行ってきた。生徒も落ち着いて取り組んでおり、学校全体として習慣化してきている。2学期以降も、有意義な取り組みになるよう継続させていきたい。また、3年生の就職進学に向けて、面接指導等全教員協力の下、取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価		年内での就職の内定率が A 100% B 95%以上100%未満 C 90%以上95%未満 D 90%未満	3年生を対象に 12月末に調査	(12月中に調査・集計を実施)
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策				<ul style="list-style-type: none"> 就職試験の面接では、事前に考えていないこともよく質問される。入社後は、チーム力、コミュニケーション力、応用力が大切であり、高校時代からそれらの力を高めることが必要である。授業参観では、生徒が挙手している光景をよくみるが、大変に良いことだ。 本に興味を持つ生徒がいることは良いことである。 企業に入社しても、工業高校出身というだけでは魅力はないが、「こういう資格を持っています」というと周囲から評価される。今後も資格取得の取り組みを進めて欲しい。
				<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用やアクティブラーニングを取り入れた授業改善を進めている。生徒一人一人に、自分で考えて意見を言う体験を多く積ませて、面接対策ばかりでなく将来企業で活躍できる力を身に付けさせたい。 2学期以降も、出前図書や「先生のお薦めの1冊」運動を行い 貸出図書数を増加させたい。 1年時から声かけなどで資格試験の受験を勧め、合格に向けて補習等でしっかり指導していきたい。

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
2 心身ともに健康で逞しい人づくりのため、規範意識を高め、生徒会活動や部活動を活性化させる。	① 本校の運動部は、県高校総体・新人大会で団体・個人とも上位を目指し、高体連表彰敢闘賞を獲得する。	高体連基準総合得点が A 60点以上 B 55点以上60点未満 C 50点以上55点未満 D 50点未満	県総体6月末集計結果 70点 評価：A	これまでの県総体の結果、現在の総合得点は70点で19位である。これは弓道男子の3位、バスケットボール男子・卓球女子・柔道男子・剣道男子のベスト8、ヨット男女の優勝によるものである。昨年の最終成績は57点で男子総合11位であった。評価はすでにAであるが敢闘賞受賞に向けて、今後のラグビー部を加えた最終結果が待たれる。
	② 文化部で部活動への重複加入を奨励し、各部の取組や活動に、生徒が積極的に取り組み、よい成果を収める。	文化部の活動や成果に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	各文化部対象に 7月にアンケート調査 A：59% B：37% C：4% D：0% 評価：A・B合わせて96%	文化部加入者対象アンケート結果、A・B合わせて96%の生徒が活動や成果に満足していると回答した。昨年度の中間評価と比べて1ポイント減であるが、評価できる値である。運動部加入者によるアンケートでは、99%が活発に活動していると回答している。文化部も9月に行われる羽工祭や高文連各種行事、工業部門の発表の場を活かしてよい成果が得られるよう生徒に働きかけていきたい。
	③ 生徒会を中心にして行事への参画意識を高め、自主的に参加する行事にする。	生徒会行事に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A：57% B：39% C：3% D：1% 評価：A・B合わせて96%	生徒対象アンケート結果、A・B合わせて96%の生徒が満足していると回答した。昨年度の中間評価と比べて4ポイント増であった。生徒会役員を中心にした全校生徒への働きかけや、日々の委員会活動、各行事の内容が充実している結果と考えられる。9月には生徒会の最大行事羽工祭がある。全生徒が満足できるよう生徒に働きかけていきたい。
	④ 倫理観・道徳意識(モラル)に関する全校一斉読み聞かせを行い、規範意識の向上を目指す。	本校の教育活動や朝の読み聞かせにより、規範意識が向上したか A 十分向上した B 少し向上した C あまり向上していない D 全く向上していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A：48% B：44% C：7% D：1% 評価：A・B合わせて92%	生徒対象アンケート結果、「向上した(A・B)」と答えた生徒は92%となり、中間評価では判定基準をクリアできた。生徒指導、自転車指導、一日一善運動、読み聞かせ、そして毎日の授業・部活動などの教育活動全般が、倫理観・道徳意識の向上に著実に効果が出ていると考えられる。後期も、前期の結果に慢心することなく教職員・生徒会・生徒に呼びかけ、行動が変容するよう工夫していきたい。
	⑤ 保健だよりや集会、SH等を利用して、生徒の心身の健康管理についての意識の高揚をはかる。	自分自身の心と体の健康管理について、日頃から意識して生活しているか A 常に意識している B ある程度意識している C あまり意識していない D まったく意識していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A：20% B：59% C：19% D：2% 評価：A・B合わせて79%	生徒対象アンケート結果、A・B合わせて79%となり、今回は判定基準の75%以上は達成でき、昨年度と比較すると2ポイント増加となった。しかし、昨年度も冬季に実施した調査では73%と目標の75%を達成することができなかったため、今回の結果に安心することなく取り組んでいきたい。また、2学期以降は残暑の厳しい季節から冬へと向かい、体調を崩しやすい時期となるので、生徒の健康に対する意識がさらに向上するよう努めたい。
3 社会貢献や環境に対する意識を高めるため、工業学習成果の提供や奉仕活動等を積極的にを行い、地域社会との連携を深める。	① 社会に貢献する大切さや必要性を認識するために、地域ボランティア活動や校外の一日一善運動を推奨する。	地域ボランティア活動や一日一善運動について A 毎日必ず実践している B できるだけ実践している C あまり実践していない D 全く実践していない	生徒対象に 9月にアンケート調査 A：10% B：70% C：19% D：1% 評価：A・B合わせて80%	生徒対象アンケート結果、A・B合わせて80%の生徒が実践していると回答した。昨年までの調査では地域のボランティアに2〜3回参加した生徒の割合は34%であった。本年は「一日一善運動」をアンケートに加え、実践しているかを調査した結果、昨年の割合を大きく上回る結果となった。今後もボランティア活動や一日一善運動を奨励し社会に貢献できる生徒を育てていきたい。
	② Webページの更新回数を多くし、学校行事や学習、部活動などでの様々な取り組みを積極的に広く公開することで、多様な教育実践を保護者や入学希望の中学生などに情報発信する。	ホームページを更新した回数 A 60回以上 B 50回以上60回未満 C 40回以上50回未満 D 40回未満	8月末日段階 更新回数 78回 評価：A	本校ホームページは8月末日の段階で78回の更新ができた。更新方法が比較的簡便になったことが功を奏したと考えられる。部活動の結果や体験入学等の紹介をはじめ、間近な行事などの日程もスムーズに情報発信することが出来ている。今後は各分掌などの複数担当者による「簡便なホームページ更新のシステム作り」を図るため、校内研修等を計画し、更に内容の充実したWebページになるように努めていきたい。
	③ 環境保全のこれまでの取組を向上させ、ゴミ分別や環境保全が正しく行われているかを評価し、美化意識の向上を目指す。	18点以上の教室が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満 環境保全(ゴミの分別・節水・節電等)に取り組んでいる割合 A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	7月に教室清掃調査 9クラス中8クラスが18点以上であった。(89%) 評価：B 生徒対象に 7月にアンケート調査 よくあてはまる 52% ややあてはまる 39% 評価：合わせて91%	7月調査の結果9クラス中8クラスが18点以上であった。残り1クラスも平均17.5点であり、評価はBであるが取り組みとしては満足できるものである。その背景には、昼食時の放送での啓発活動やクラス担任の指導が功を奏したと思われる。次回の調査では全クラスが18点以上になるよう、更なる活動をしていきたい。 生徒対象アンケート結果、「あてはまる」と回答した生徒が91%となり、判定基準は達成できている。その背景には昼食時の放送による啓発活動や掲示物により、生徒達の意識が向上したことである。特にゴミの分別に関しては学校全体として大変よくなっている。次回の調査ではさらなる意識向上を図るため、活動をしていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別などの習慣付けや、道徳や規範意識を高めるために一番大切なのは家庭での取り組みであり、保護者の協力が重要である。 ・ボランティア活動や一日一善運動の実践アンケートは、実践頻度を回数で質問した方が客観的になってよいのではないか。 ・自転車マナー一斉指導では、多くの生徒から挨拶を受けたことは良かった。また、自転車の整備状況を見ると、手入れができていないものがあった。物を大切に手入れをする習慣を持つことが工業高校生では一層大切である。 			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・本校での規範意識を高めるための取り組みや成果をHPなどで発信し、保護者へ一層の協力をお願いする。 ・ボランティア活動等の実践アンケートについては、「回数では答えにくい」という意見にもとづき今年度変更したいきさつがあり、今後続けて検討していく。 ・挨拶運動を学校を上げて取り組んでおり、今後とも熱心に推進していく。自転車点検(4,10月)や自転車安全キャンペーン(5月)等を行い、自転車の手入れの大切さを年間を通して指導しており、今後とも継続して指導していく。 			